

使徒パウロが聖霊によって、コロサイ教会宛てに書いています。

コロサイ 2:11-15

- 11 キリストにあつて、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。
肉のからだを脱ぎ捨てて、キリストの割礼を受けたのです。
- 12 バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。
- 13 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、
- 14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。
- 15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。

私たちが理解できるように、神の祝福を一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、今この時、あなたが必要です。

全神経をあなたに向けて、集中できるように助けて下さい。

そうすれば、御言葉を通してあなたが語って下さる事を聞くことができますから。

主よ、聖霊によって集中させて下さい。

そうでないと私たちは気が散って、あなたが教えようとしている事を逃がしてしまいます。

私たちはそうなりたくないのです。

主よ、一人ひとりにはっきりと語って下さい。

イエスの御名によって。アーメン。

今日お話したいのは、とてもシンプルですが、極めて重要な真理についてです。

それを理解して、もっと大切に適用すれば、クリスチャン人生としての生き方を変えることができるのです。

今日のタイトルは「イエスは私の必要のすべて」

なぜなら、イエスは私のために、私の代わりに全てを成し遂げ、全てを支払ったからです。

私の必要の全てはイエスです。他は何も必要ありません。私が何かをする必要もないのです。

古い聖歌を思い出していました。

“Give me Jesus. You can have all this world. All I need is Jesus . Give me Jesus”

「ただイエスをください。他のものは全てあなたにあげる。必要なのはイエスだけ。ただイエスをください。」

イエスが既にして下さった事に、私がこれ以上付け加える事は何もなく、加えようとする事は無駄な働きで、それは失敗に終わります。

実はこれが、キリスト教が世界中の他の全ての宗教と区別できる事で、その事によって、他の宗教が何であるかをさらけ出すのです。それらはニセモノです。

先週、銀行に行った時、銀行員と面白い会話をしました。彼女の方が始めたというべきでしょう。

私はちょっと引いてしまったというか、少し驚きました。今までこの銀行員と会った事も、担当だった事もないからです。

彼女はきっと新しく入った人で、私が牧師だと気づいたのでしょう。宗教について、大学で受けていた宗教の授業がどのようであったかをコメントし始めたのです。

私は「主よ、今ここで始めさせないで下さいよ…だって、列が…」

銀行ってどうしていつも、こんなに行列ができるのでしょうか。私はいつもすいている時を狙って行くのですが、他の人たちも同じ考えなのですね。なので、いつも混んでいます。「ああ、主よ…」
皆さんが今までにこんな事に遭ったかどうか分かりません。が、このような状況の時、私たちの内側にあって全ての人の希望となる答えを伝えるように、と主が扉を開いているようで、「主よ、分かりました。」と。

この女性は非常に鋭く、賢くて、知識も豊富です。私は返答しました。そのまま放っておくことはできなかったのです。

なぜなら彼女は、「世界の全ての宗教は、基本的に同じ神を礼拝している」と信じていたから。

「私はあなたに日曜日の礼拝メッセージをしているみたいですよ。」

実際この状況は主が話しておられるようで、私は基本的にこう言いました。

「イエスは『**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。(ヨハネ 14:6)**』と言われたのです。」

こんなに興奮しながら言ってませんよ、感謝なことに。もっと若くてエネルギーがあった時には、やっていたと思いますが。そして伝えました。

「これが、世界の全ての偽宗教とキリスト教を区別するのはです。宗教は神のために人間が何かしますが、キリスト教では人間のために神が既にして下さったのです。それが違います。」

例えばイスラム教。イスラム教は偽の宗教です。

ムスリムはアッラーのために何かしなければなりません。それが宗教。

キリスト教は全く逆だと言えます。

私たちが神のためにするのではなく、神が私たちのために既にして下さったのです。

神は人となられ、私たちのために、私たちのために死なれました。(十字架刑)

それで完了しました。ピリオド (.) です。コロソ (:) やセミコロソ (;) ではありません。完了。

さて、それがコロサイ教会の問題でした。

「他にしなければならぬ事がある」という教えが入っていて、この教会の場合、それは割礼。

コロサイ教会は殆どが、割礼を受けていない異邦人で構成されていたからです。

それでコロサイ教会に偽教師がいて悪影響が入り込み、「まだ何かをしなければならぬ。割礼が必要だ。」とっていました。それが、パウロが指摘している事です。

コロサイ 2:13-14

13 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、

14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、

私はここが好きです。決着がつくというか。

ところで私たちは、コロサイのクリスチャンに対して批判的にならないようにしなければなりません。

彼らは、自分たちが何かをしなければならぬ、する必要があるのかもしれない、と考えていました。

こういう事に関して、私たちは自分の性質をよく考えた方がいいと思います。

私たちは、生まれながら持っている罪の性質とプライドにより、イエス・キリストにあって既に得ているものを懸命に求め続けるのです。それはプライドで、こんな感じで、コロサイで起こっていました。

「なんだ、異邦人か。信者だけど、異邦人なんだね。割礼を受けているかい？ 私は受けているよ。」

別の言い方をすれば、裏の意味は「私は優れていて、あなたは劣っている。だって、私はこれをしたけど、あなたはしていない。」

真理はこれです。「私はどんな宗教的慣習も儀式も行う必要はない。イエスがそれら全てを全うされたから。」

今では、それらは象徴なのです。

あるコメンテーターがこの事を最高の表現で説明していました。

「全ての宗教儀式は完了し、全ての必要条件は満たされた。」

今日、教会は割礼には一切関係しません。その話をする事すら、心地悪くなる感じですよ。

しかし、水による洗礼に関しては、今日「洗礼による新生」で知られている偽の教えがあるのです。

これは、「救われるためには、洗礼を受けなければならない」という教えです。これは間違いです。

他にどう言われているのか知りませんが、こう言えるかもしれません。

誰かが来て、イエスが既にした事に加えて、何かをしなければならないと言うなら、彼らはニセモノです。

それは偽の教え。

救われるために水の洗礼を受ける必要はなく、救われるために割礼を受ける必要もない。

これらは今や象徴なのです。

割礼は肉を切り捨てることの象徴で、水の洗礼はキリストにあってよみがえることの象徴です。

8月11日、日曜日に洗礼式があって、何人かが受洗の予定です。

私は受洗者を支えて、水の中に仰向けに沈め、そのままにします。(なぜ笑っているのですか?)

そして水の中から起き上がらせます。

つまり、死んで水の中に葬られ、そうして水から出て来て、イエス・キリストの復活を象徴しているのです。

それが水の洗礼。

聖餐式も同じです。

私たちが祝っている聖餐式は、イエスが私たちのために既にして下さった事の象徴で、もうなされた事、完了したのです。

イエスが罪を取り去り、十字架に釘づけて全てを成し遂げ、私たちの負債を、代価を全部支払って下さいました。もはや必要条件はなし。

これらは象徴で、言い換えると、聖餐式も水の洗礼も救いのための必要ではなく、それらは救いの象徴なのです。

今まで聞いた中で1番良い例は、結婚指輪です。

私の結婚指輪は、私が結婚しているという象徴です。私は結婚しているでしょ。

同じように、洗礼は私が救われているという象徴です。

指輪が私を結婚させることはできません。この指輪は私が結婚しているというだけの象徴。

だから洗礼は、死んで葬られ、復活したイエス・キリストと自分は一体化している、という表明なのです。

次にお話する事は先週時間をかけていたことで、木曜日夜のバイブルスタディーでお話しました。

それは、何年もの間、私が本当に理解していなかったことです。

御言葉の中に過ごし、主と共に時間を過ごす時、主が目を開いて下さり、今まで見えていなかった事に光が当てられて、「おお!なるほど、そういうことか!」

先週、そのような体験をしました。残りの時間はこの事についてお話したいと思います。

私と主との関係は、私が主のためにした事によって決まるものではありません。

主のためにする事が、実は、主との関係の妨げになり得るのです。これが、長年疑問に思っていた事です。

この教会の事ではないのを知っておいて下さいね。この教会は素晴らしい教会です。

本土で私が開拓し牧会していた教会は、対立、争い、不一致、論争ばかりで、委員、長老たち、執事たちというスタッフでさえ、本当に全ての人がいつも争っていて、どうしてこうなるのか、とても理解できませんでした。

私は若い牧師で(今は若くないけど、かつては若かったんです)、ミニストリーがよく分かっていまして

した。私が知っていたのはビジネスと企業の世界、世俗的な領域だけだったのです。私が理解できなかった事の1つは、なぜクリスチャンは、互いにこんな風に接するのか。特に教会という環境の中で。世の中でさえ、これほどまでに悪くないのに。全くワケが分かりませんでした。

主は、ロイ・ヘッション著『カルバリの道 (The Calvary Road)』の続編の本、『神を見る生活 (We Would See Jesus)』に導いて下さって、何度か読み返しました。ロイとレベル夫妻の話です。よろしければ、ここから引用し、詳しく説明したいと思います。

「奉仕や神のための働きに集中する事は、私たちの本当の目的到達の妨げになりかねない時がある。(目的とは神ご自身です) 神や人々への奉仕に身を投じていると、初めは雄々しく見えるかもしれない。神を体験する事よりも、それをする事の方が、神に対してより大きな意味があると考えられるのだ。奉仕は利己的でないように見えるのに、神との歩みに専念する事は、利己的な自己中心に見える。しかし真実は逆だ。

クリスチャンの奉仕自体、自分たちの自己中心的性質に手を付けず、そのまま放置して行う事が非常に多い。特別な働きを手掛ける教会や宣教団体、委員会が本当に少ないのは、心を腐らせ、発達を妨げる人間関係の問題を解決しないからである。」

これが、突然光が当てられたところです。

私たちと主との関係が、主への奉仕という祭壇に、犠牲として献げられているということ。別の言い方をすると、主に仕える事のために主との時間が犠牲になるなら、私はそれに関わりません。世がハイジャックしてしまった、成功の秘訣という言葉を使うのを許して下さい。ハイジャックという言葉も使うべきではありませんが。

ミニストリーの中で、主への奉仕の中で、教会としてはもちろんの事、成功の秘訣は私たちがする事にあるのではなく、イエスとの関係の中にあるのです。

私は主と共に歩んでいるスタッフたちに、奉仕のために苦しんで欲しくはありません。

数歩下がって、こんな風に言わせて下さい。私自身に言っている事です。

まずもって、私に主との親密な関係がない限り、私がこの教会の牧師でいる資格はありません。

私の特権であるこの講壇の後ろに立つ権利はありません。

そして私がまず、主との時間を過ごしていない限り、教え、説教する資格はありません。

これは最も、最高の最高に重要な事なのです。

「それが欠けているなら、それは足りないのです。」

主との関係の中になく、それを無理に補おうとしている事が、奉仕によって覆い隠されてしまう。

主への奉仕は、ある意味、私たちのエゴ(自我)を刺激します。

「そう、私は委員会の議長だ。」「(畏れ多い感じで) おお…私にはできない事です。」

これは、私たちのプライドを刺激します。

対照的に、イエスと時を過ごすなら、私は彼の前にへりくだるのです。

私がああ杯からぐっと飲むまで、イエスとの親密な時間を持つまでは、講壇に立つことも彼を表現することもできません。イエスを歪めて伝えてしまうことになるからです。

最後に実話をお話します。これが全てを物語っていると思います。

今は主の元にいるヘンリー・アイロンサイドが、妻の死を悲しむある男性について語っています。

これはテレビが登場するはるか以前の、家族団らん、会話していた時代の事です。

「夫と大切な一人娘を残して、妻は去ってしまいました。秋はあつと言う間に過ぎ去り、冬のクリスマスが迫っていた時期のこと。クリスマスホリデーの忙しさに追われていたある夜、娘は夕食の後、丁寧に挨拶をして、父親を残して自分の部屋に行き、一晩中閉じこもった。これが毎晩。クリスマスの朝、1階に走り下りて綺

麗に包装したプレゼントを父親に渡すまで。

彼がプレゼントを開けると、中には手編みのスリッパが入っていた。愛する娘が彼のために毎晩時間をかけて作ったプレゼント。父は彼女に感謝を伝え、そして優しくこう言った。

「お父さんは毎日の孤独な夜をおまえと一緒に過ごすことが、1万個のスリッパをもらうよりも、はるかにいいんだよ…」

これは父の日の今日に適切な話だと思えます。敢えて言うと、主が欲しいものは何か分かりますか？ 私たちです。私たちとの時間です。

2人の息子が「ねえ、父の日に何が欲しい？」と聞いて来ました。彼らはわざとそう言ったのです。だって、私の答えを既に知っていますから。「君たちと一緒に過ごしたい。ただ、一緒にいたい。」何も欲しくないし、何かして欲しい事もない。ただ一緒に過ごしたい。それだけが私の願いです。

先週、主がこう言われたように感じました。

「あなたはわたしのしもべだ。確かにあなたはわたしに仕えていて、ミニストリーに関わっている。それは注目される事だし、称賛される事だ。しかし、わたしがあなたに何よりも求めている事は何か分かるか？ それはあなただ。わたしはただあなたが欲しい。ただあなたと時間を過ごしたい。あなたをすごく愛しているから。」

これが真実じゃないですか？

主と時間を過ごすなら、他の人々と過ごす時間に深く影響を与えますよね。つまり、あなたが主との親密な時間を持っているなら、最も長い時間を一緒に過ごす人に似て来るのは確かでしょう。

あまり良くない構文でしたね。私の英語を許して下さい。別の表現で言った方がいいですね。

私たちは1番近くにいる人々と同じ振る舞いをし始めます。私が何を言いたいかわかりますよね。

イエスと過ごせば過ごすほど、イエスに似た者となる。これがポイントです。

神の目的は、私たちをイエス・キリストのかたちに一致させる、更にイエスに似た者としていくことではないですか。イエスと共に時間を過ごさずにいて、どうしてこれがなされるのでしょうか。

私と妻はたくさん時間を共に過ごして来ました。

彼女は「共に過ごしすぎた」と言うかもしれませんが。良い意味で言っていると思いますよ。

とても面白いことは、31年間の結婚生活で、私たちがどれほど似て来たかということです。

実際、気味が悪いくらい。分かりますよね。時には、話さなくても、様子だけで考えている事が分かります。言葉を使わなくてもいいのです。とても親密に互いを知っているから。

このようになるなら、自分はキリストにあって何者であるかという正しい見方ができるのです。

私は他に何も必要ありません。委員長である必要も、その規模で仕える必要も、役員である必要も。

スポットライトが当たる必要もない。

ある人は驚くかもしれませんが、私はスポットライトが好きではありません。本当に。

「じゃあ、説教を止めたらいいよ。」という顔で見ている人がいますが。もう終わりますから、もう少し待って下さい。

実は私、内向的な人間なんです。実際、スポットライトを求めていた時もありましたが、神は何年もかけて、本当に私の内に働いて下さいました。神はまず私の内に働かれない限り、私を通して働くことができないという事を私は知ったのです。

その働きとは、神の子イエス・キリストのかたちに私たちを造り変えていき、更にキリストに似た者にする事です。もっとキリストのように。

キリストのようにとは、キリストはへりくだっていて、愛し、親切で優しい。これらは御霊の実です。

私たちの内に聖霊がおられ、キリストのようになるために更に内に働き、内側から造り変えるのです。

最後にお話しします。

もしかしたら、今日の父の日がちょうど良いのかもしれません。

人生の音量を下げて、実際オフにして、全てを遮断して、ただ5分だけでもやってみてください。

もっとできるなら10分、15分を目指してもいいですが、言いたい事は、あなたとイエスだけになること。

あなたとイエスだけの時間。彼にあなたの心を探ってもらいましょう。責めるためではありませんよ。

罪を示されるかもしれませんが。

あなたとイエスの間に入り込んでいるものがないか確かめて下さい。

私が言っておきたいのは、殆ど毎週のように言っている気がしますが、私たちが一旦主の元に来た後は、敵は何としても、主から引き離そうとするということです。

イエス・キリストの救いを信じる前なら、サタンはそれに至らないようにできる限りのことをします。

しかし救いを信じたら、サタンは戦略を変え、再編成し、私たちが主から引き離すためにありとあらゆることをするのです。時に、奉仕という尊い行為を使って。

私が人生の中で見張るべき事の1つは忙しさです。「私は主に仕えている!」「神のことで忙しいんだ!」

主が私を見ている様子が思い浮かびます。

「わたしは、わたしに仕えることのために、あなたに忙しくして欲しくない。わたしはただ、あなたと一緒に、わたしとあなたとで時間を過ごしたい。あなたがわたしと時間を過ごすなら、その時、他の全てのことは上手く収まる。」

私たちはここハワイで忙しい生活をしていますね。

やりくりをするために、2つ3つの仕事を掛け持ちしている人もいます。すごく大変です。

だけど忙しさが、あなたに最も必要なイエスからあなたを引き離そうとする時、気をつけて下さい。

大切なのはイエスだけです。

祈りましょう。

天のお父様、ありがとうございます。

このシンプルな真理に感謝します。シンプルですが、これは核心です。

主よ、今日、忙しいスケジュールを見直す機会かもしれない事、私たちの心があなたに探られる良い時間となるかもしれない事を、私たちが心に留めますように。

主よ、私たちの人生に巣くっていて、私たちがあなたから引き離している何かがあるなら、どうかそれを取り去ってください。それがあなたと私との間に入り込んでいるのなら取り除いて下さい。

あなたを愛しています。主よ、感謝します。

イエスの御名によって。アーメン。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしておくべきではない。」ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi